

- ・ UNIS における外国語教育
- ・ 一年間の流れ（学校行事）
- ・ 日本との交流

・ UNIS における外国語教育

UNIS は幼稚園から高校が一つの校舎の中にある。教育のシステムは4・4・4制である。120を越す国籍の生徒、70近くの国籍の教員が生活している UNIS では、英語が第一言語であり、授業ならびに諸会議はすべて英語で行われる。

外国語は小学校から始まる。第二外国語という位置づけのスペイン語とフランス語が小学校一年生から始まり、生徒はそのうちの一つの言語を選択する。UNIS に残る生徒は卒業するまでの少なくとも10年間は第二外国語を履修しなければならない。日本語、中国語、アラビア語、ロシア語、イタリア語、ドイツ語を第三外国語と呼び、中学三年生（7年生）からそのうちの一つを選択し、4年間の履修が義務付けられている。

日本語学習のカリキュラム

- 7年生 カタカナ、ひらがな、身の回りの表現、自己紹介
- 8年生 他己紹介、動作、プロポーズ、思い出話、漢字の導入、日本への語学旅行
- 9年生 形容詞、動詞の表現、パワーポイントプレゼンテーション
- 10年生 自分の住まい、日常生活、日記
- 11年生 ブログを使った交流、模擬授業、プレゼンテーション、日本への語学旅行
- 12年生 ブログの交流、ディベート（環境問題、交通機関）、読み物、漢字

7年生から10年生までは、**NATIONAL STANDARDS FOR FOREIGN LANGUAGE LEARNING** の5つのC（**COMMUNICATION, CULTURES, CONNECTIONS, COMPARISONS, COMMUNITIES**）をベースに作られた教科書を使って授業の展開をしている。特に、習ったことを使ってプロジェクトを遂行するなど、文法中心ではなく、プロジェクトベースの教授法がユニークではある。時には会議を行って文化体験の内容を決めたり、発表方法を話し合ったりする。

11年生からは The International Baccalaureate(以下 IB)の特別コースになるので、日本語を選択する生徒の数は大幅に減る。

日本語科における発表活動

- 10月 UN-DAY における発表（歌、踊り、スキット、プレゼンテーション）
- 1月 年賀状（個人：コンテストに参加）
- 3月 ビデオスキット（コンテストに参加）
- 4月 MLD 外国語祭りでの発表（歌、踊り、スキット、プレゼンテーション）  
俳句（個人：コンテストに参加）
- 5月 日本語科の発表会（歌、踊り、スキット、プレゼンテーション）

## . 一年間の流れ

- 8月下旬 新人研修（二日間）
- 9月中旬 カリキュラムミーティング（中高）
- 10月上旬 アフタースクール開始（年少の継承語教育）
- 10月中旬 中学生のキャンプ引率（任意）  
中間成績の配布  
UN-DAY（発表）  
横浜商業高等学校国際科生徒 UNIS 訪問
- 10月下旬 中間試験（クラス内）
- 11月上旬 個人面談（木曜の夕方、金曜日全日）  
横浜ピースメッセンジャーの生徒 UNIS 訪問
- 中旬 ACTFLにて発表（今年はサン・アントニオ。来年はオーランド）
- 12月中旬 期末試験（時間指定）
- 1月中旬 前期成績提出
- 1月下旬 前期後期の切り替わり  
10年生キャンプ引率（任意）
- 2月中旬 2月休みをりようして日本へ語学旅行（中学4年生）
- 3月上旬 UNIS-UN（世界高校生会議）  
日本から複数校 UNIS 訪問
- 3月中旬 中間成績の配布  
個人面談（木曜の夕方、金曜日全日）  
中間試験（中学生）
- 3月下旬 春祭り  
日本から UNIS 訪問（ホームステイの手配など）
- 4月上旬 MLD フェスティバル  
中間試験（高校生）
- 4月下旬 サイエンスフェア（8年生）  
12年生の授業が終わる
- 5月上旬 遠足（日系スーパーへ出かける。7年生と8年生が対象）
- 5月中旬 第二言語の語学旅行（中学4年生一週間）  
9年生カヌーキャンプ（任意）  
Japanese Language Night 日本語科の発表（全学年）  
卒業式（国連本会議場）
- 6月中旬 期末試験（時間指定）  
後期成績提出
- 7月上旬 UNIS 生徒（11年生）日本にて語学旅行
- 7月中旬 IB ワークショップ（@ユニス）  
ニューハンプシャー州セントポール高校にて、サマープログラムのお手伝い
- 8月 日本語教育関連の発表や研究会

## . 日本との交流

REX 教員に期待されていること = 日本と New York の橋渡し

の行事の赤字の行事は、いずれも日本から UNIS を含む New York を訪問する学校との橋渡し役である。いずれの学校もかつて UNIS で働いていた REX OB が所属学校でもあり、この行事は今後も継続されると考える。REX OB が勤務する学校でも国際交流を盛んに行っており、UNIS をはじめとして、REX 教員の派遣先との協力は必要不可欠なものとなっている。

他方では、日本との交流を望む声が多数挙がっていることを、日本ではあまり認識がないように感じられる。REX Program については、現在所属している北東部日本語教師会の定例発表会、昨年 NY で行われた日本語教育世界大会、全米外国語教師会全国大会において、REX 事業を説明すると、その存在が多くの先生に知られていないことがわかった。毎回そうだが、説明終了後に何人かの先生から日本の学校とつながりを持ちたいとの連絡をもらい、紹介をしたこともあった。

今年はインターネットを使った取り組みとして、現在生徒の間で活発に行われているブログを立ち上げ、日本の高校生と UNIS の生徒がお互いの外国語である英語または日本語で互いにコメントをしたりメールを送ったりした。単なる生徒同士のやり取りではなく、そこには最新の情報がつまっていたり、同じ世代の者同士が共有できる価値観があったり、言葉からだけでは理解できない文化が感じられたり、ブログを通して日本の生徒と UNIS の生徒の橋渡しをしている実感がわいた。

一番の交流は、実際に UNIS の生徒を引率して日本へ行くことである。約 10 日間、生徒はそのほとんどを日本人の一般家庭で過ごす。これまで家族と離れて過ごした経験が少ない彼らには大変貴重な体験となるこの行事。準備は 11 月から始まり、出発直前まで確認作業が続く。授業内では自己紹介の練習と、日常生活で使える表現。許可を求める言い方や盛りだくさんの授業が続く。また、アメリカの生活を日本語と英語でできるようにと、ポスターを作って、それを日本の学校で紹介したり・・・準備に多くの時間を費やした。日本へ出発してから帰国までの間は保護者への無事メール。自分にとってはあまり自由な時間もなく、忙しかったが、日本の学生の中で片言でも日本語を使ってコミュニケーションをとろうとする彼らを見て、無駄な努力はないんだと実感した。

おそらく REX 教員が派遣中に求められていることは、まだまだたくさんあるのだろう。これまで書いたことは、UNIS の津田先生がこれまでの継続して行ってきたことを助けただけに過ぎない。New York に留まらず、世界規模で日本語を通して広がる人とのつながりの中に REX 教員が立ってサポートしていると信じる。今後とも REX 教員を一人でも多く世界に派遣して、政治ではない一般市民の立場に立った支援が求められている。